

1. 単元名 郷土の伝統・文化と先人達 —高瀬の伝統「鹿楽招旭踊り」—

2. 単元の目標

- ・地域に残る文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など、人々の願いが込められていることを理解する。(知識・技能)
- ・歴史的背景や現在に至る経過、保存の継承のための取り組みなどに着目して、文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現する。(思考・判断・表現)
- ・地域に残る文化財や年中行事に関心を持ち、一度も途切れず続いてきたことについて意欲的に調べたり考えたりするとともに、大切に守り続けていこうとする態度をもつ。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領(4)「県内の伝統や文化、先人の働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して次の事項を身につけることができるよう指導する」のア(ア)「県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解すること」、イ(ア)「歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現すること」にあたる。

本単元では、高瀬地域に伝わる伝統舞踊「鹿楽招旭踊り」を教材として取り上げる。この踊りは、高瀬地区平石水に古くから伝わる伝統舞踊であり、約1200年前から伝わる物である。伝説では、山寺一帯の土地を支配していた狩人の磐司磐三郎から、山寺を開基しようとした慈覚大師が一帯の土地を借り受け、殺生禁止の地としたとされている。その土地に住む獣たちは、これから安心して暮らせると喜び、土地を貸してくれた磐司磐三郎に感謝した。その際に獣を代表してカモシカが踊ったのが、鹿楽招旭踊りの始まりと伝えられている。

昭和39年に山形市指定無形民族文化財になっており、現在は地元の保存会がその伝統を守っている。主な発表の場としては、地元で年に一度開催されている「紅花祭り」や、慈覚大師の縁の地である山寺の「磐司祭」などがある。また、学校や公民館の落成式などのお祝い事の場面でも発表している。保存会の人数は、現在18名で、36～70歳の方が活動している。これまでに何度か会員の募集を呼びかけているが、担い手不足が課題となっている。また、以前は外部での発表も盛んに行っていたが、発表の機会も減少しており、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響で、ここ2年間は練習も十分で出来ない状況が続いている。

(2) 児童観

児童らは、2年生の生活科で町探検の学習、3年生の社会科で校区を調べる学習、4年生の総合的な学習で学校の歴史を調べる学習をしてきた。学校や地区の事柄への関心は高く、意欲的に学習を進めてきた。また、地区の方へのインタビューの活動を大変楽しみにしており、要点をメモする力や、聞いた話から新たに質問を考える力がついてきた。

地域を題材とした学習への意欲が高い一方で、今回取り上げる鹿楽招旭踊りなどの昔から受け継いできた伝統文化については、ほとんどの児童が存在を知らない。「高瀬地区の伝統について知っていること」について問いかけたところ、「紅花の栽培」や「高瀬川の鯉のぼり」、「開山杉」など、学校の学習活動内で取り上げられたものばかりが挙げられ、児童らの中には、地区に古くから伝わる文化についての知識は無い。また、2019年、高瀬地区青少年健全育成連絡協議会が鹿楽招旭踊りをモチーフにしたファイル(右図)を作成し、児童らに配った時に、この踊りの伝説について説明受けているはずだが、現在では、ファイルに書かれたものがどのような意味をもっているのか、忘れてしまっているという実態もある。



(3) 指導観

まず、第一次では、全く知らなかった鹿楽招旭踊りについて知る事からスタートするために、「鹿楽招旭踊りとはどんな踊りなのだろう。」という学習課題を設定する。写真や動画などから、疑問に思ったことを挙げていき、衣装、音楽、歌、歴史などの視点から鹿楽招旭踊りを調べていく。インターネットや図書室の文献などで調べていくが、記載されている情報が少ないので、児童らは自分達だけでは解決できない疑問があることを認識すると考えられる。そこで保存会の方とのお話し会を提案して、疑問の解決に繋げていく。

次に、第二時では、「鹿楽招旭踊りはどうして受け継がれてきたのだろう。」という学習課題を設定し、保存会の方とのお話し会を設けて、知りたいことをインタビューしていく。実際使われている衣装を間近で見たり、歌に合わせて踊る姿を見せてもらったりしながら、唐楽招旭踊りの由来や踊りに込められた意味についてお話をさせていただく。また、これまで職業の転換期に保存会の活動が途絶えたことや、保存会の会員が年々減少していること、そうした困難をどうやって乗り越えてきたかについても話をさせていただき、学習課題の解決に向けた自分の考えをつくらせたい。

第三次では、「鹿楽招旭踊りを受け継ぐためにできることは何だろう。」という学習課題を設定し、受け継ぐために何をすれば良いかを考えていく。学習の導入段階では、「高瀬にいてのに、自分達は鹿楽招旭踊りを何も知らなかった」という実態があったことを児童ら思い出させることで、児童らは「高瀬にいても唐楽招旭踊りについて知らない人がたくさんいる」と考えることが予想される。自分達なりに情報を発信する方法を考えながら、鹿楽招旭踊りのすばらしさについて整理していきたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

公平性：喜びや嬉しさを他者（人間・動物）と分かち合うために続けられてきた。

連携性：多くの人々が苦労や困難を乗り越え、協力して伝統を守ってきた。

責任性：伝統を受け継いでいくためには、自分達のできる行動を考えていくことが大切である。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

クリティカル・シンキング：保存会の活動が一時的に途絶えてしまった事実から、なぜ復活させようと思ったのか考える。

システムズ・シンキング：保存会の所属する人、所属していない人のそれぞれに思いがあることを知った上で、自分達にできることを考える。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正：代々、高瀬地区には踊りを受け継いだ人がおり、たくさんの人が守ってきたから鹿楽招旭踊りは長く続いてきた。これからも続けていきたい。

生物多様性の重視：昔から大切にされてきた高瀬の自然や動植物を、自分達も大切にしながら生活したい。

・達成が期待されるSDGs

目標11：まちづくり

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①鹿楽招旭踊りが受け継がれてきたのは、地域の人々の踊りに対する願いや熱い思い、様々な工夫や苦労があったことを理解している。	①鹿楽招旭踊りの保存のために、困難を乗り越えながらも努力してきた人々の思いを考えることができる。 ②踊りを存続させるためにできることを考え、調べて感じたことを表現している。	①鹿楽招旭踊りに関心をもち、意欲的に調べたり考えたりしている。 ②鹿楽招旭踊りを大切にしていこうとする態度を表している。

5. 単元の指導計画（全10時間）

	<p>伝えて曲を覚えてきたなんてすごい。 ○踊りを続けてきた保存会の人の思いを知る。</p> <p>お話の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本全体が高度経済成長期で、それまで農業や林業を営んでいた人たちが近くの工場に働きに行くようになった。だから、みんなで集まって練習をすることができなくなっていった。高瀬を離れてしまう人もいた。 ・ここでなくしてしまったら1200年の歴史が終わってしまう。「なくしてはならない。」と思って、みんなで時間を見つけて練習を続けてきた。 ・踊りを続けていくことで、人と人とのつながりが生まれる。地区に知り合いが増え、みんなで協力することの大切さを知ることができるのが保存会を続けていく理由の一つでもある。 <p>○現在、担い手が不足していることや活動の場が無くなってきていることなど、保存会の方の悩みを知る。</p> <p>お話の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保存会に所属している人は、高齢の方が増えている。現在、保存会に18人所属しているが、50代～70代の人ほとんどである。 ・コロナで練習をしたくてもできない。来年の紅花祭りで披露できると良いが、それもどうなるかわからない。 ・地区を限定して会員を募集していたが、高瀬地区全体に募集の枠を広げることにした。また、これまで男性しかいなかったが、女性でも入ってもらえるようにしようと話し合っている。 	<p>★技術革命により、電化製品や自動車などの部品を作る中小規模の工場が増加。山形市の立谷川工業団地ができたのもこの頃。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15年間、保存会の活動が途絶えてしまった事実を伝え、復活させようとした人々の思いを考えさせる。 ・保存会の方の年齢を教してもらい、10年後、20年後の年齢を確認し、踊りや演奏をできるかどうか考えさせる。 ・保存会の人達も、会に入ってもらうために様々な事を考えて実行してきていることを伝える。 	<p>△ア1 △イ1</p> <p>△ア1 △イ1</p>
3	<p>鹿楽招旭踊りを受け継ぐために、自分達にできることは何だろう。</p> <p>本時の課題「保存会の方の悩みについて、一緒に考えよう。」(1時間) ○保存会の方の話しを受け、伝統を受け継ぐために自分達にできることはないか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人は踊りの存在を知らない。踊りの魅力をまとめたパンフレットやリーフレットを作って、紅花祭りのときに配るのはどうか。 ・これまでに学習した踊りの魅力についてまとめて、学校みんなに発表する。自分たちもそうだったように、学校の子供たちの中にもこの踊りを知らない人がいると思う。 ・踊りをみんなで踊ってみるのはどうか。実際に踊りを見せた方がそのすごさがわかるし、自分たちも踊りを覚えられるから。 <p>本時の課題「鹿楽招旭踊りを高瀬の人達に発信しよう。」(3時間) ○踊りの魅力についてグループごとにまとめ、パンフレットを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この踊りが始まったきっかけが何なのか知らせたいから、由来について書きたい。 ・迫力のある大きなお面についてみんなに知らせたい。よく見ると、雄と雌のお面に違いがあることについても知ってほしい。 ・笛や太鼓が自然の物で作られているということに驚いたから、それについて書きたい。 ・保存会の方の思いを載せたい。「若い人がいない」という事を書いておくと、興味を持った人が入ってくれるかもしれないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保存会に入っていない大人(自分の家族など)の意見を事前に聞いてくるように課題を出しておく。 ・保存会の方に来てもらい、「踊りの魅力をいろいろな人に知ってもらいたい。」という願いを話してもらい、その願いに沿ったものはどれか話し合わせる。 ・学習してきたことで、「すごいと思ったこと」、「びっくりしたこと」、「初めて知ったこと」を想起させ、個人のノートに記事を書かせる。 ・内容ごとに3～4人のチームを作り、各々の持っている記事の共通点や類似点を見つけ、書きたいことを厳選していく。 ・原稿をまとめ、保存会の方にも見ていただく。できあがったパンフレットは、来年7月の紅花祭りで配布する。 	<p>△イ2</p> <p>△イ2 △ウ2</p>

